



★
きかんし

ぽくだい

北海道大学教職員組合機関紙

電話 011-746-0967(FAX 共通) / 内線 2083・3994

URL: <http://ha4.seikyoku.ne.jp/home/kumiai/>

戦争法を

世論を喚起して

ひっくりかえそう！

— わが臥薪嘗胆の日々

委員長 間宮 正幸 —

1994年、名古屋の久屋大通公園で、「小選挙区制反対」の大きなデモに参加した時のことを思い出します。白衣を着た医師・看護師らといっしょに叫び歩きました。それは、「戦場に若者を送らない」という合言葉を共に胸に抱いた、「戦争できる国にしようとする勢力を許さない」という叫びを発した行動でした。それから21年が経ち、まさかにしたかった時が来てしまったのではあります。安保法制、すなわち、武力行使の「戦争法案」が、小選挙区制という最悪の仕組みのなかで、政党助成金を分け合っている議員たちの、あのレベルの議論だけで国会で採決されたのです。

少しやっかいで深刻な心境にならないこともありません。しかし、私は、気落ちはしていません。私のなかの憲法九条は60年以上をかけて身体にしみ付いてきたものです。だから、そう簡単にあきらめたり別の問題に気移りしたりすることはありません。むしろ、今の私の疑問は「どうしてこれほどアメリカなのか」ということに向いています。どうして「属国」水準であることを人々が承認し続けるのか。そのことが知りたい。天皇制の形成過程もしっかり見つけていくことが必要でしょう。

去年、アメリカのダワー教授がこんなふうに語っていました。今夏も話題になった人です。

「日本が軍備を拡張すればするほど、米国の世界的な軍事活動に積極的な参加を求められるだろう。日本は米国の軍事活動に関与を深める『普通の国』ではなく、憲法を守り、非軍事的な手段で国際問題の解決をめざす国であってほしい」(J.Dower, マサチューセッツ工科大学名誉教授、『朝日新聞』2014年5月10日)。これが、私の原点でもあります。世論を喚起して、戦争法案をひっくりかえそうではありませんか。

臥薪嘗胆 (がしんしょうたん)

悔しいが、しばしの間、ベッドではなく薪(たきぎ)のうえに寝て身を苦しめ、熊のいがい胆(きも)をなめて、その怒りや悔しさを忘れないように叱咤するという意味。

21世紀の新たな課題にひきつけます。そのためにも、自分を愛し他者を愛するということ、真に共同性が必要とされているということに気付くことが大事だと思います。組合の意義はそこにあります。

改正労働者派遣法の 施行をめぐる諸問題

北海道大学では、非正規職員の人数は多く、仕事の質・量において重要な役割を果たしている。非正規職員の待遇改善は、北大教職員組合の重要課題のひとつである。

しかし日本全体では 9 月 30 日に改正労働者派遣法が施行され、非正規雇用の量的拡大と低処遇の固定化を招きかねない状況にある。今回の労働者派遣法の変更点は主に 3 点ある。①すべての業務で派遣期間を 3 年間に統一、②企業による派遣労働者受け入れ期間の制限を事実上撤廃、③派遣会社に対する許可制導入と教育訓練の義務化等の規制強化、である。このうち①②は、派遣労働者に不利益をもたらす恐れがある。すなわち①では、期間の制限なく働くことができた「専門 26 業務」も、改正法施行後の最初の契約で 3 年任期に切り替わる。②では、従来は派遣労働者が 3 年働いた後も同じ業務を任せる場合、直接雇用へ切り替える必要があったが、改正後は人を代えればその業務を永続的に派遣労働に委ねることができる。改正法が「改悪法」と揶揄される所以である。

北海道大学では一時に比べ派遣労働者は減少しているが、それでも病院の医療会計事務等での従事が見られ、派遣労働は職場の問題である。加えて期間満了後の直接雇用化が実質的に無くなったため、今後「使い勝手の良い」派遣労働者が増加する懸念がある。改正派遣法では、業務について 3 年を超えて派遣労働者を受け入れる場合、労働組合または過半数代表者に意見聴取を行うことを定めている。職員を派遣労働者へ置き換えることを阻止するには、労働組合が重要な役割を担うことになる。北大教職員組合も力をつけてゆく必要がある。

(教育学部班 駒川 智子)

全大教教研技術職員分科会報告



9 月 11 日(金)～13 日(日)に金沢大学で全大教第 27 回教職員研究集会が行われました。B4 技術職員分科会では、長年の課題となっている昇格改善実現にむけた討論が行われました。電通大、名古屋大、九工大、大阪大、佐賀大からのレポート報告があり、電通大では、5 級不在と 4 級在職者が塊となっている現状に対し待遇改善を求めたこと技術者の職務と級を関連付ける標準職務表を事務と同様に作ったにも関わらず待遇が悪化しているとの報告がありました。名古屋大からは、2010 年に団体交渉で事務・技術職員の昇格改善に努力することが確認され、最高 22 名だった技術専門員数が 2014 年度から 30 名に増員させた。組織のトップを 6 級とする組織化が良いか基準を満たせば 6 級まで昇級可能な「技術専門員」制度を安易にかなぐり捨てるべきかどうかについて冷静な判断が必要でないかとの報告がありました。九工大、大阪大からは、組織の改組についての報告がありました。大阪大の組織は、部局の内規に基づく組織でなく学内規程に基づく組織化がされたとのこと。最後に、2015 年度全大教技術職員交流集会開催に向けてのアンケート項目について話し合い終了しました。

(農場班 佐藤 浩幸)

大学の研究成果が人殺しに使われる

大学の軍事研究助成金が創設！

2015 年は、大学関係者が全国で「戦争反対」「民主主義を守れ」の声を上げ、広範な市民とも連携した年と記録されるでしょう。しかし、私たちが働く大学、まさにここで進行しつつある事態に目を向けなければ、2015 年が「軍学協同の先駆けの年」となりかねないことも事実です。

防衛省は 2015 年度に研究助成「安全保障技術研究推進制度」を開始しました。この助成制度は、他省庁の研究助成と同じweb システムを利用して軍事研究であることを研究者が強く意識することなく申請可能です。また、「軍事にも民生にも利用できる『デュアルユース』技術の基礎部分を研究する」として申請者の心的負担を軽減しています。年間最大 3000 万円程度、1～3 年の研究期間という研究費はそれほど大型のものではなく、研究者が気軽に応募できます。しかし、防衛省が研究費を提供するのは、まさに軍事で必要とされている分野です。「民生でも使えるから軍事研究ではない」のではなく「防衛省が助成するから軍事研究である」と判断すべきです。防衛省のホームページによると、この公募に大学から 58 件（全体で 109 件）の申請があり、4 件（全体で 9 件）が採択され、審査にも多くの大学関係者がかかわりました。

経常的研究費が削られ、研究継続のためには競争的研究費獲得が不可欠な状況の下、手頃で心理的負担の低い軍事研究助成金が創設されたことになります。この助成制度が拡大すれば、武器輸出三原則を撤廃したことと併せて、大学での研究成果が世界中で多くの人殺しのために使われてしまう危険性が大いにあります。今こそ、かつて北海道大学の新生歓迎集会での松浦一先生が語った言葉「学問に志す人は、誰よりも平和を愛する人でなければならない。・・・もし平和を侵すものあらば敢然と戦う人でなくてはならない」を思い起こす時ではないでしょうか。

（工学部班 山形 定）



人事院勧告をどう見るか！



今年の人事院勧告が 8 月 6 日に出了。ポイントは以下の通りです。

人事院が調査した官民給与較差は 1,469 円、0.36%でした。この差を埋めるべく給与を引き上げなければなりません、人事院はその配分を「俸給 280 円」「地域手当 1,156 円」「はね返り分 33 円」とし、地域手当にウェイトをかけてきました。昨年の「総合的見直し」により、地域手当は 1 級地（20%）～7 級地（3%）に再編されています。この中には、地域手当が引き上げられたところもあります。例えば、1 級地の東京都（特別区）は 18%から 20%に引き上げられました。地域手当の引き上げは段階的に行うこととなっていました。東京都も今年度は 18%のままでしたが、今回の人勧により一部前倒し実施となり、18.5%と 0.5 ポイント引き上げられます。

道内で地域手当が支給されているのは唯一、札幌だけです。しかし、昨年の「総合的見直し」は 3%のま

ま据え置きとしました。従って、この面でのメリットも何もありません。俸給表はわずかながら引き上げられるでしょうが、昨年の「総合的見直し」は平均 2%の引き下げを行っており、今年 4 月から 3 年間の現給保障となっています。従って、これも実質的なメリットはゼロと言って良いでしょう。俸給表の引き上げにもっとウェイトをかけて欲しかったところで、極めて不満の残る内容です。「2 年連続の引き上げ」と言っていますが、とんでもありません。なお、ボーナスは民間の支給割合が 4.21 月、公務が 4.10 月で、0.1 月分引き上げられます。12 月のボーナスは期末手当・勤勉手当合わせて 2.225 月となる予定です。さしあたりのメリットはこれだけです。

（書記長 東山 寛）

合同教育研究全道集会 2015 のご案内

合同教研集会が今年も下記の要領で開催されますので、参加をお願いします。参加者には全大教北海道から交通費が1日1,000円支給されます。

目 時： 2015 年 11 月 7 日（土）9:45～18:30 / 11 月 8 日（日）9:30～15:00

場 所： 札幌学院大学（江別市文教台1-1） TR 大麻駅徒歩10分

◆1日目 テーマ討論 11月7日(土)9:45～12:15 ①戦後70年、被爆70年、憲法と平和を考える ほか

分科会 11月7日(土)13:30～16:15 第19分科会「国民のための大学づくり」に参加を!

教育の夕べ 11月7日(土)16:30～18:30

記念講演 「原発、沖縄基地、憲法、教育... ～日本の将来、北海道の未来～」

小説家、詩人、北海道文学館館長 池澤夏樹さん

◆2日目 分科会 11月8日(日) 9:30～12:00 13:15～15:00 ※詳細はリーフレット参照



《組合関連スケジュール》

10/17 全大教技術職員委員会（東京）
10/19 北大職組執行委員会
10/24-25 全大教合同単組代表者会議（札幌）
10/31 市民公開シンポジウム
「産業遺産から読み解く北海道の近代」
札幌市北区民センター
11/7-8 2015合同教育研究集会
札幌学院大学(江別・大麻)
11/21-22 医大懇 岡山にて

＜労音・札幌音鑑 11 月例会＞

軽快！
デキシーランドジャズの世界へ！
WHAT A WONDERFUL WORLD

ジョニー黒田と デキシーフリンズ コンサート

2015年 1 1月 1 2日 [木]

18時00分開場 18時30分開演

札幌市教育文化会館小ホール

札幌市中央区北1条西13丁目

参加費 一般¥3000 会員¥2500

ご希望の方は 組合員 村上まで 内線 9461

090-7648-3208

